

## 総合的な学習の時間 あかもん学習において目指す子ども像

- 自分たちのふるさについて、誇りと愛情をもって語れる子ども
- 自分の言葉で豊かに思いや考えを表現できる子ども

本校のあかもん学習のテーマ

### 人とともに生きる

国分寺町は年々人口が増加し、校外の住宅街として必要な生活環境が着々と整備され、目を見張るほどに発展を遂げている。昭和30年に町が誕生した国分寺町も平成18年1月10日に高松市と合併をし、人口42万人の都市の一員となった。地域の特徴としては、他地域からの流入が多く、核家族が多い。このような実態を考えたとき、子どもたちに国分寺町を誇りに思い、愛情をもってふるさとと実感できるようになってほしいというあかもん学習の考えは地域の実態に応じたものだと言える。

そこで、あかもん学習の第1条件として考えたのは、身近な素材を通して学習を展開することである。生活に結びついた学習は、子どもたちの興味・関心を持続させ、課題を深め広げて、連続した活動を生むと同時に、実感をともなったものとして位置づいていくと考えたからである。第2に体験活動の重視があげられる。体験とは自分が周囲の人・自然・社会と「かかわりを持つ」こと、また「やりとりをする」ことである。自分のもっている感覚を通して体験的に学習を進めることで、自分にとって意味ある課題をとらえ、学習を追求していくことができると考える。特に本校が中心体験として考えるのは、「人とのふれあい体験」である。地域に住み、地域を愛する様々な立場の人と交流をもち、その人の思いにふれることで、初めてふるさと意識が高揚するものである。

国分寺町は、たくさんの史跡がある歴史の古い町である。盆栽やカンカン石など自慢すべき特産品がある。ただ事象を積み重ねて調べていっても、そこに人の営みが見えてこない限り、確かな愛情はわいてこない。伝統を受け継いできた人のすばらしい技にふれたり、それを伝え残そうとする願いが見えたりすることで、自分も地域の一員としての在り方を考えるようになるのではないだろうか。

また、本校は人権教育を常に柱として研究を進めてきた学校である。自分のまわりにはたくさんの友だちがいて、自分を支えてくれるたくさんの地域の方々もいることをきちんと理解した上で、お互いのかかわりの中でともに伸びていこうという子どもの育成に努めてきた。

以上のことを踏まえ、本校のあかもん学習のテーマを「人とともに生きる」とし、各学年に今日的な教育課題「地域」「環境」「福祉」「国際理解」を配列して、1年間1テーマで学習を展開していきたい。なお、年間計画を立てる際、十分に教科との関連を図り、内容や表現で統合をしながら、学習を展開していけるようにしたい。

## 平成 23 年度あかもん学習

### あかもん学習の内容と時間配分

	単 元 名	教育課題	人権学習
時数	56時間～64時間		6時間～14時間
3年	大好き！わたしたちの町 国分寺	地域・文化	「障がい者についての理解」
70時間	64時間		6時間
4年	ほたるの住む町 国分寺	環境	環境と命
70時間	63時間		7時間
5年	ハートフルタウン 国分寺	人間・福祉	「ハンセン病についての理解」
70時間	62時間		8時間
6年	わたしたち 国際人	国際理解	人権獲得への道
70時間	56時間		14時間

### 身に付けさせたい一つの心と四つの力

- ①認め合う心 相手を思いやり，また，自分を大切にし，お互いの価値を認め合いながら，力を合わせていこうとする心
- ②課題発見力 身の回りの人・自然・社会に興味や関心を持ち，自分の判断で自分の課題を見つけることができる力。
- ③課題追求力 自分の課題に合わせて，学習の見通しをもち，意欲的・主体的に，課題の解決に向かって活動を持続する力。
- ④表現力 追求した課題を，目的や相手に応じた方法を考えて，適切に表現することができる力。
- ⑤自己評価力 自分の学習の仕方や進め方を振り返り，正しく自己認識でき，次の学習に生かすことができる力。